

研修だより

No.9

公開研お疲れさまでした！②

今回は中学年ブロックの授業について、事後研で出た意見をまとめました。ぜひご覧になってください。

中学年ブロック 4年3組阪本学級 国語「未来につなぐ工芸品」



仮説1について

- 全員が学びに向かっている。既習の要約文をループリックに使用することで、児童にとって具体的な例として有効に活用されていた。
- 学習計画や評価が明確だったため、児童が目標に向けて主体的に動くことができていた。
- 導入が簡潔で分かりやすく、その分自力解決の時間が長く確保できていた。
- △ほぼ全ての児童が文字数以内に要約を完成させたが、時間内に全児童に評価を伝えられなかった。ただ、子ども達の反応で「時間が経つのが早い！」「コツが掴めてきて、楽しかった」「自信があるから、後で見てほしい」などが多く聞かれ、達成感は感じられたのではないかな。



仮説2について

- 導入時により取組の児童を数人紹介したことで、交流相手を選ぶ際の判断基準ができたのがよかった。
- 途中、一斉にペア交流を行う時間を設定したことで、考えの視点が増えて自力解決や関わり合いがより活発になった。
- △本時までには3つの説明文を要約し、視点や技法を身に付けてきたが、児童同士のチェックで細部まで点検し合い、修正することは難しかった。合っているかどうか、先生に確認してもらいたい児童が多かった。
- △協働して要約文を作っていたが、個人に力がつくのか？
- 自力の思考と相談を往還しながら学びを深める姿を目指している。単なる模倣にならないよう、日々言葉かけをしている。



その他

- 児童が自走するための教材研究と、児童が使う教材づくりが素晴らしい（デジタルワークシート、到達度に応じたヒントカード、全文シートなど）。
- 準備の大変さ。多くの教員が簡単にできる方法はあるか？
- 授業者の細やかな関わりがよかった（机間指導での言葉かけ、前時までの取組に対し、オクリンクプラスでコメントを送付したことなど）。
- 要約文の授業は難しいという印象があったが、指導のポイントや目指す目標など、自身が授業をする際のイメージができた。
- 児童が主体的に学ぶために最も重要なことは、教師自身の「深い」教材研究だということを改めて実感した。

指導主事より

- めりはりのある授業で素晴らしい。授業者の発言が少なく、「子どもが主人公」の学びを実現している。
- 一時間の時間配分が明確に示されており（途中でペア交流を行う時間や、自力解決の終了時間など）、児童が見通しをもって活動に臨める。
- 豊成小学校の二つの仮説が明確に反映された授業だった。
- 他者参照や自己決定に ICT が活用されている。→全文シートに書き込み、オクリンクプラスではコピー＆ペー
- ストを有効に活用することで、作業の手間を減らし思考に集中できる。児童も操作方法を身に付けている。
- 学習成果の表現方法や発表の対象は、学年に応じて発展していくのか？
- 今後に向けて、ループリックに示す評価規準がさらに具体化されるとよい。